

ても感心して言いました。

「問題は、そこなのです。ここでお願いするのも、銅版画によるさし絵なのです。いま、言われた細かな部分をあらわすところ、新しい医学に必要なのです。とくに、解剖の分野で求められています。今までのわが国の解剖図は、すべて木版画でかかれています。もし、『医範提綱』が、銅版画の解剖図をつけて完成させたなら、これは、わが国では、はじめての銅版画の解剖図になります。」

田善は、この仕事を喜んでひきうけることにしました。

また、これをしあげるとは、どのさまも喜ぶし、ふるさとの人々にも胸をはれる、と思ったのです。

田善のころよい返事に、玄真と弟子たちは、とても喜びました。

オランダの医学書を、つきつきに持ってきて、田善と夜おそくまで、銅版画や医学のことを熱心に話し合いました。そして、あらためて心をひとつにして、この仕事をやりとげることが、ちかいました。